

「厳心旗争奪第 41 回総和剣道大会」への改称経緯と優勝旗のリニューアルについて

総和剣道クラブ会長 古谷芳和

皆様におかれましては、今大会にご参加いただき、心より歓迎申し上げます。

長い間「近県剣道大会」の名称で親しんでいただきました本大会ですが、今回より「厳心旗争奪第 41 回総和剣道大会」と改称させていただきます。以下、大会名称の変更経緯について、大会の歴史等も含め記させていただきます。

近県剣道大会は、昭和 40 年代後半の少年剣道が盛んになり始めた当時、「剣道大会を開催することにより、地域の子どもたちにたくさんの経験を積んでほしい」と「地域剣道の発展に寄与できれば」との思いから、当時の総和剣道クラブ役員が中心になり準備が進められ、現総和剣道クラブ顧問の粕田良一氏（元県議会議員）のご尽力により、「一般・高校生・中学生・小学生」4部門の優勝旗の寄贈を受け、昭和 47 年 10 月に「第 1 回近県剣道大会」として開催いたしました。

第 1 回大会から数年は、九州の玉龍旗にちなんで勝ち抜き大会で開催しました。その後、現在の形式になりましたが、当時の関係者の思い入れが感じられる大会でした。勝ち抜き方式こそ変更になりましたが、当初から剣道は生涯続けることに意義があり大切と考え、4部門は現在も継承しています。

小学生から一般までを対象とした大会は近隣・近県でも少なく、大変意義ある大会として剣道関係者から評価を受けており、平成 24 年 10 月の「第 40 回大会」まで継続してまいりました。おかげさまで、近年では大会趣旨に賛同してくださる団体が関東圏はもとより、福島・宮城・山形・長野・静岡など遠方からも参加され、選手数も 1800 人を超える規模になってまいりました。

数年前、ある剣道関係者との会話で「私が出場した総和の近県剣道大会に息子も出場し、そして同じメダルをもらいました。親子ともども総和の大会で育てていただき感謝しています。」との嬉しい言葉をいただきました。第 1 回大会より運営委員として、また選手として関わってきた者として深く感銘を受け、また同時に大会の重みを感じ、身の引き締まる思いになりました。

この様な背景の中、昨年第 40 回大会を節目として「近県剣道大会」の名称の変更と優勝旗のリニューアルを行うことといたしました。

大会名及び優勝旗名の「厳心」につきましては、剣道は精神の修練であり、心厳しく鍛錬を重ねることで正しい剣の道を究めること。また、総和剣道クラブの創設並びに発展に大変尽力された、先代の会長であります故望月厳先生の名を一字いただくことで、その志を引き継いでいこうというものであります。また、開催地名および主管である総和剣道クラブから「総和」の名を冠することで、参加団体に親しみを感じていただければと思っております。

新たな優勝旗は、総和剣道クラブ顧問であり元茨城県議会議員及び佼津ハウス（有）代表取締役の粕田良一様、（株）佼津代表取締役の新谷友康様の二人から、深いご理解のもとご寄贈いただきました。心より御礼申し上げます。

従来にもまして、本大会の円滑な運営に努力してまいりますので、引き続きよろしくご理解とご協力をお願いいたします。